

平成 29 年度「隠岐広域連合地球温暖化対策実行計画」の取組結果について

1. 計画の概要

隠岐広域連合では事務事業活動に伴い排出される温室効果ガスを削減するため、「第 3 期隠岐広域連合地球温暖化対策実行計画」（平成 29～33 年度）を策定し、対策に取り組んでいます。※この計画における温室効果ガスは二酸化炭素としています。

■平成 29 年度の取組結果は以下のとおりです。

(単位：t co2)

	平成 27 年度 (基準年度)	①目標値 (削減△3%)	②平成 29 年度 (実績)	比較増減 (②-①)
二酸化炭素	2,851	2,765	3,016	251

2. 温室効果ガスの排出状況

1) 主要項目別取組結果

■主要項目別では、電気、灯油、廃棄ゴミ類についての排出量が目標値に比べて増加しています。

(単位：t co2)

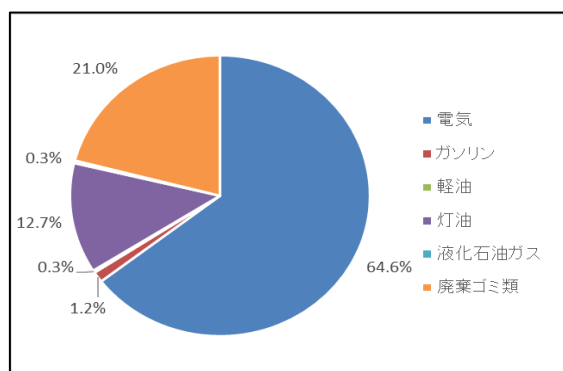
	平成 27 年度 (基準年度)	①目標値 (削減△3%)	②平成 29 年度 (実績)	比較増減 (②-①)
電気	1,853	1,797	1,947	150
ガソリン	40	39	37	△ 2
軽油	12	11	8	△ 3
灯油	333	323	383	60
液化石油ガス	5	5	9	4
廃棄ゴミ類	608	590	632	42

2) 要因別温室効果ガスの排出割合

■排出割合を見ると、電気が 65%、廃棄ゴミ類が 21%と多くを占めています。

(単位：t co2)

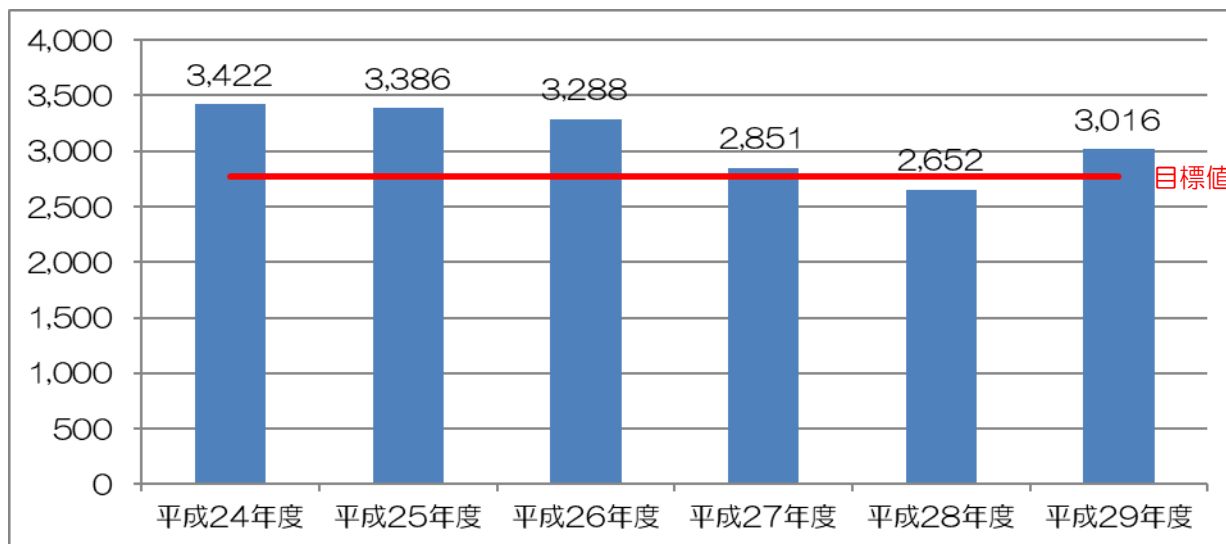
	平成 29 年度 (実績)	割合
電気	1,947	64.6%
ガソリン	37	1.2%
軽油	8	0.3%
灯油	383	12.7%
液化石油ガス	9	0.3%
廃棄ゴミ類	632	20.9%



3) 取り組みの推移

■平成29年度は基準年度と比較して5.8%の増加、目標値と比較して9.1%の増加となっています。

(単位：t co2)



3. 取組結果の状況

隠岐広域連合の温室効果ガスの総排出量は目標値に比べ増加しました。

要因としては、基準年度に比べて気象状況の変化（夏の平均気温の上昇、冬の大雪）による冷房、ストーブ等の使用時間が増加したためと考えられます。

4. 今後の取り組み

職員一人ひとりが事務事業の執行の中で、日常的に省エネ・省資源に取り組むことにより、温室効果ガスを削減することができます。今回の結果を受け、より一層ノー残業デーの徹底や冷暖房機器等の光熱費の削減に取り組んでいきます。

庁舎設備に関する省エネ機器等の新規導入は困難ではありますが、目標を達成するため、職員の更なる意識向上を図るとともに、取り組みを推進していきます。

【参考】隠岐広域連合の対象施設毎の温室効果ガス排出量

(単位：t co2)

	平成28年度	平成29年度
隠岐病院	2,154	2,498
隠岐島前病院	370	354
消防本部（分署・出張所含む）	104	142
事務局	24	22